

修道院の貢献



浅野忠利

●修道院の役割

皇帝グレゴリウス1世(540-604)は、ベネディクト戒律が表された6世紀の姿を嘆き悲しんだ。

「町から人がいなくなり、要塞は破壊され、教会も焼かれ、修道院や尼僧院も取り壊された。畠に人はなく、農民が見捨てた大地が見る影もなく広がっていた。ここにとどまる農夫はなく、人々の代わりに野獣が群れている。私たちが暮らすこの地では、世界が終わるといってお告げどころか、既に世界が終わり始めている。」

この過酷な世を救ったのが、ベネディクト会の修道院であった。修道院は先回触れたベネディクト戒律を基として、ヨーロッパのキリスト教社会を形作って行く。ここでは3つの代表的な修道院を採り上げ、文化文明の担い手が修道院から都市に引き継がれる過程を追いかける。第一にベネディクト戒律そのものを生んだモンテ・カシーノ、第二に隆盛のあまりベネディクト戒律の本旨を外れていったクリニエ、最後にベネディクト戒律の本来の姿に戻した修道院クレルヴォーである。

●モンテ・カシーノのその後

529年に創建され、ベネディクト戒律の実践の場となったモンテ・カシーノ修道院は、創建間もない6世紀の末期の2度に亘る蛮族ランゴバルトによる略奪を受け、いったん放棄され、8世紀フランク王国カロリング家の庇護のもとに再興されている。その後も、9世紀末のイスラームによる破壊を受け、14世紀のペストの大流行や地震による壊滅的な打撃、1944年の連合国による大空襲とこれら度重なる致命的障害を乗り越えて、そのたびに再建されてきた。再建のたびにその存在意義は薄れたものの、ベネディクト戒律とベネディクト会がいかにヨーロッパに深く根付いていたかを物語っている。当時、世俗を離れた修道士であったが、ゲルマンの君主から、新しい世俗的役割も負わせられ、修道院は文化施設、不動産の管理施設、砦、宿泊施設、教育施設、研究施設そして伝道拠点になった。一方で、建築、農園、菜園といった物的環境を整え、他方修道的な共同生活体に必要な知的鍛錬を通して創造性を養い、調和のとれた修道士が、次々に輩出した。

●クリュニー修道院の功罪

クリュニー修道院は『ベネディクト戒律』を遵守する姿勢を明確にしながら、915年からの200年の間にヨーロッパ各地に1500余りの従属修道院からなる一大修道院連合を組織するという発展を遂げた。9世紀半ばから10世紀にかけてカロリング帝国が分裂と衰退を始めると異民族に

よる略奪と破壊に曝され、修道院や教会も荒廃した。更に、俗人貴族によって教会や修道院が所有あるいは支配されることとなった。9世紀から11世紀半ばまで、極まりない乱脈が続く中、国王や諸侯からなる貴族たちは、自ら財産と権力を安定させる最善の方策として、クリュニーへの寄進を行った。寄進によって集められた財を、祈りの施設整備に湯水のごとくつぎ込んだ。華美に飾られた祈りの環境は、巡礼や喜捨の対象となり、財はますます積み上がった。祈りへの偏重は修道院から手仕事や労働をすべて放逐し、祈りの環境としての音楽、建築そして芸術に狂奔することとなった。かつて王、貴族などにあった芸術活動などの営みの総てが修道士達の手に移ったのである。

●ベネディクト戒律に回帰したクレルボー

クリュニーのベネディクト戒律からの著しい逸脱は、1115年クレルボー修道院の誕生となった。ベネディクト戒律の本来の姿を取り戻すべく、極端な清貧と禁欲を基本とした自給生活を営んだ。皮肉にも、清貧であり、禁欲に徹し、勤勉に働くことは、豊かさをもたらす結果となる。クレルボーの修道士は、荒れ果てた谷間を選び、草の根を食し、下着を身に着けず、自ら過酷な環境の中で共住を始めた。時と共に、クレルボーの修道士は優れた能力を育み、農業、林業、畜産に加えて養魚、給水、採鉱冶金の技術も身につけ、その禁欲勤勉は富の源泉となった。更に、この厳格な姿勢は芸術の開花を促すこととなった。贅は総てに厳格に禁じられていたが、明快さ、簡素さ、永遠性を生むことになり、これがゴシック様式へと導かれるのである。ヨーロッパ全土にわたる12世紀の都市生活の復興に先立つ、クレルボーの時代に、工学技術など社会とその発展に必要な技術の多くが修道院の中で始まり、発展し、解放され、手工業を含め社会全体の全生産力が増大したのである。

●同業組合(手工業ギルド)への引き継ぎ

修道院がキリスト教信仰による禁欲勤勉を旨として積み重ねて来た営みの総ては、600年という長い忍耐の時を経て、実を結ぼうとしている。ルイス・マンフォードは「機会の神話」(樋口清訳)に記す。

『修道院が始めたことを、中世の同業組合が成し遂げた。同業組合は、工業と商業における連合組織の新しい基礎を置いただけでなく、宗教によって条件付けられた美的、道徳的価値を仕事に復活したからであり、生活の他の面もそれらの価値によって支配された。』

今回は同業組合(ギルド)を描く。

以上